#### 

# 放課後児童健全育成事業の課題

## ―保護者へのアンケート調査から ―

谷本 弘子, 谷本 要

#### 〔論文要旨〕

放課後児童健全育成事業の今後の課題を検討する目的で、小学校1,2学年に在籍する児童の保護者に学童保育についてのアンケート調査を行った。調査結果から、以下に示したような十分にニーズを満たされていない家庭の存在が推察された。①学童保育を設置していない校区の家庭、②運営内容により利用できない家庭、③現在学童保育を利用しているが、改善の希望を持つ家庭。今後、すべての校区の希望者が利用できるように、施設数、定員数、運営内容を検討する必要があると考えられた。

Key words: 放課後児童健全育成事業, 放課後児童クラブ, 学童保育, after-school care

#### I. はじめに

働きながら子どもを育てる家庭にとって、放 課後や学校休業日に小学生の子どもがどのよう に過ごすかは大きな問題である。子どもたちに とっても, 放課後や学校休業日に元気にのびの びと過ごすことができる安全な環境は不可欠で ある。学童保育, 放課後児童クラブなど放課後 児童健全育成事業が国の施策として推進されつ つあるが, 地域によっては未だ施設数は不足し ている。学童保育, 放課後児童クラブなどは戦 後まもなくから必要に迫られさまざまな運営形 態で行われてきた経緯があり、1998年に放課後 児童健全育成事業として法制化された後も運営 形態、運営内容にはそれぞれの施設で大きな違 いがある」。下校時に保護者が家庭に不在の子 どもたちに安全な活動の場所を保証するために は、今後は放課後健全育成事業の施設数を増や すとともに運営内容の検討が必要となってく る。そこで、放課後児童健全育成事業のニーズ を調べ、今後の課題の検討をするためにアン

ケート調査を行った。

## Ⅱ. 対象と方法

2003年9月にA市内の小学校1,2学年に在 籍している全児童2.756人の家庭の保護者にア ンケート調査を行った。A市教育委員会, 各小 学校の了解を得、学校を通じて、配布、回収を 行った。A市では市が運営する放課後児童クラ ブが小学校の校区毎に設置されつつあり、調査 の時点では全23校区中15校区で設置され、8校 区で設置されていなかった。放課後児童クラブ の定員はすべて40人で、小学校1~3年生を対 象としていた。1校区では児童館を使用し、残 りの14校区では学校の空き教室を使用して運営 されていた。閉所時間は午後5時、ただし、冬 季は日没までに帰宅できるように午後5時より も早い時間とされていた。夏休み以外の学校休 業日および土曜日,日曜日は開設されていな かった。放課後児童クラブに関しては、調査時 に一般的であった「学童保育」の名称を使用し

Problems of the After-school Care - A Questionnaire Investigation of Parents -

Hiroko TANIMOTO, Kaname TANIMOTO

〔1752〕 受付 05. 9. 5

谷本こどもクリニック (小児科医師)

採用 05.12.15

別刷請求先:谷本弘子 谷本こどもクリニック 〒683-0257 鳥取県米子市榎原1888-3 Tel:0859-26-3030 Fax:0859-26-4510 家庭状況については全員に共通の質問を行った。同居している家族の人数,兄弟の数,兄弟の何番目か,同居している両親および祖父母それぞれの就業の有無,子どもが下校する時の大人の家族の在宅の有無について質問した。

学童保育に関しては設置している校区として いない校区毎の質問内容とした。設置している 校区では、学童保育を利用している家庭と利用 していない家庭に分けて質問をした。学童保育 を利用していない家庭には利用していない理由 を, 最初から利用を考えなかった家庭と最初は 利用を考えたが現在は利用していない家庭に分 けて複数回答可能で選択肢を設けて訊ねた。学 童保育を利用している家庭には以下の質問をし た。①閉所時間が適切かどうか、②土曜日の開 設の希望, ③春休みと冬休みの開設の希望, ④ 校区毎に1つの設置で良いか、良くない場合は 校区外も利用できた方が良いか, ⑤活動内容の 希望。①から④は二者択一で訊ねた。⑤は選択 肢を設けて複数回答可能で訊ねた。さらに①の 閉所時間が適切でない家庭には希望の閉所時間 を、②の土曜日の開設の希望がある家庭には開 所時間と閉所時間をそれぞれ選択肢を設けて訊 ねた。学童保育が設置されていない校区では, 学童保育が必要な家庭と必要でない家庭に分 け,必要な家庭に①閉所時間の希望,②土曜日 の開設の希望,③春休みと冬休みの開設の希望, ④校区毎に1つの設置で良いか,良くなければ, 校区外も利用できた方が良いかを質問した。① は選択肢を設け、他は二者択一で質問をした。

#### Ⅱ. 結果

#### 1. 回答数と回収率

学童保育設置校区の対象児童数は2,260人で、 そのうち1,842人の家庭から回答を得た(回収 率81.5%)。未設置校区の対象児童数は496人で、 394人の家庭から回答を得た(回収率79.44%)。 全体でみると2,236人の家庭から回答を得,回 収率は81.1%であった。

#### 2. 家庭状況

同居している家族の人数は4人(34.01%)が最も多く、5人(24.94%)、6人(14.85%)と続いた。家族構成は両親と子どもの核家族が58.69%と最も多く、3世代家族は33.62%、1人親世帯は7.69%であった。兄弟の数は2人(51.97%)が最も多く、3人(28.60%)、1人(14.64%)と続いた。47.93%が兄弟の1番目で、2番目の子どもが37.68%であった。父親の就業率は99.74%であった。母親の就業率は73.62%、祖父の就業率は64.55%、祖母の就業率は53.20%であった。

501人(22.66%)の家庭で下校時に家族が家 にいないと答えた(表1)。

#### 3. 学童保育設置校区での集計

A市の学童保育が設置されている校区での集計では、435人(23.93%)の家庭で、子どもの下校時に家族が家にいないと答えた( $\mathbf{表}1$ )。 学童保育を利用している家庭は344人(18.68%)であった( $\mathbf{表}2$ )。

#### i. 学童保育を利用していない家庭

最初から学童保育の利用を考えなかった家庭にその理由を聞いた結果を表3に、最初は利用を考えたけれども現在は利用していない家庭にその理由を聞いた結果を表4に示した。

## ii. 学童保育を利用している家庭

現在の閉所時間は適切かどうかの質問の結果を表5に示した。233人(70.39%)の家庭が適切と答え,98人(29.61%)の家庭が適切でないと答えた。適切でないと答えた家庭の希望の閉所時間は4.08%が午後5時,81.63%が午後

	全 体	学童保育が設置されている校区	学童保育が設置されていない校区
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)
はい	1,710(77.34)	1,383(76,07)	327 (83.21)
いいえ	501(22.66)	435 (23.93)	66(16.79)
回答数	2,211(100)	1,818(100)	393 (100)

表1 下校時に家族が家にいますか

表2 学童保育に入っていますか (学童保育が設置されている校区)

	人 数 (%)
はい	344 (18.68)
いいえ	1,498(81.32)
回答数	1,842(100)

表3 学童保育の利用を考えなかった理由 (複数回答可)

(学童保育が設置されている校区)

理 由	人 数
下校時に大人がいる	1,015
上の子どもが帰ってくる	85
他に預けるところがある	57
他の保育施設を利用	4
スポーツクラブに入っている	35
習い事がある	90
費用が高い	38
内容に不満	11
土曜日に開設していない	26
長期休暇の開設が不十分	22
閉所時間が早すぎる	19
子どもが行きたがらない	55
その他	53
回答数	1,056

6時,14.29%が午後7時であった。土曜日の開設は169人(51.21%)が希望した(表6)。土曜日の開設を希望した家庭の開所時間,閉所時間の希望は表7に示したようになった。春休み、冬休みの開設は296人(89.43%)が希望した(表8)。校区と学童保育についての質問ではそれぞれの校区に学童保育が一つで良いとする答えが270人、校区に一つでない方が良いという答えが66人であった(表9)。校区に一つでない方が良いという中で、32人が校区外の学童保育も利用できた方が良いと答えた。一部重複回答があり、その多くは「校区毎に1つの設置でよいが校区外も利用できた方が良い」という内容であった。活動内容の希望を表10に示した。

表 4 学童保育の利用を最初は考えたが現在は利用 していない理由(複数回答可)

(学童保育が設置されている校区)

理由	人 数
定員のため入れなかった	54
家族が仕事をやめた	85
他に預けるところがある	46
他の保育施設を利用	1
スポーツクラブに入っている	10
習い事がある	28
費用が高い	64
内容に不満	13
土曜日に開設していない	53
長期休暇の開設が不十分	44
閉所時間が早すぎる	48
子どもが行きたがらない	87
その他	87
回答数	327

表5 閉所時間について (学童保育を利用している家庭)

閉所時間は適切ですか。 適切でなければ何時が希望ですか

人数 (人)	割合 (%)
233	70.39
98	29.61
331	100
4	4.08
80	81.63
14	14.29
98	100
	233 98 331 4 80 14

表6 土曜日の開設を希望しますか (学童保育を利用している家庭)

	人数 (人)	割合 (%)
はい	169	51.21
いいえ	161	48.79
回答数	330	100

	開所時間			閉所時間	
時間	人数 (人)	割合 (%)	時間	人数 (人)	割合 (%)
午前7時	1	0.61	午前12時	19	11.45
午前8時	83	50.30	午後1~4時	28	16.87
午前9時	77	46.67	午後5時	70	42.17
午前10時	4	2.42	午後6時	43	25.90
			午後7時	6	3.61
回答数	165	100	回答数	166	100

表7 土曜日の開所時間, 閉所時間の希望 (学童保育を利用し土曜日の開設を希望する家庭)

表8 春休み,冬休みの開設を希望しますか (学童保育を利用している家庭)

	人数 (人)	割合 (%)
はい	296	89.43
いいえ	35	10.57
回答数	331	100

表9 校区毎に1つの設置でよいか (学童保育を利用している家庭) (回答数326)

		人数
校区毎に1つでよい		270
校区毎に1つではよ	校区外も利用できた 方が良い	32
くない	校区外の利用はでき なくても良い	34

## 4. 学童保育未設置校区での集計

学童保育未設置校区での集計では、下校時に 家族が家にいる家庭が327人 (83.21%)、いな い家庭が66人 (16.79%) であった (**麦1**)。あ なたの家庭にとって学童保育を必要としますか という質問には172人 (43.65%) がはいと答え、 222人 (56.35%) がいいえと答えた (**麦11**)。

## i. 学童保育が必要な家庭

閉所時間の希望は午後4時が2人(1.27%), 午後5時が75人(47.47%),午後6時が68人(43.04%),午後7時が11人(6.96%),午後8時が2人(1.27%)であった。土曜日の開設は121人(72.46%)が希望した。春休み,冬休みの開設は168人(94.64%)が希望した。校区に

表10 活動内容の希望(複数回答可) (学童保育を利用している家庭)

内 容	人 数
室内遊び	58
室外遊び	87
宿 題	203
他の学習	57
スポーツ	104
その他	16

表11 学童保育を必要としますか (学童保育を設置していない校区)

	人数 (人)	割合 (%)
はい	172	43.65
いいえ	222	56.35
回答数	394	100

表12 校区毎に1つの設置でよいか (学童保育の設置されていない校区) (回答数165)

		人数
校区毎に1つでよい		99
校区毎に1つではよ	校区外も利用できた 方が良い	49
くない	校区外の利用はでき なくても良い	20

一つで良いかの質問では99人(60%)がよいと答え,66人(40%)が一つでない方が良いと答えた。校区に一つでない方が良いと答えた人の

うち,49人(71.01%)の人が校区外の学童保育も利用できた方が良いと答えた(**表12**)。**表**9と同様に一部重複回答があった。

#### Ⅳ. 考 察

#### 1. 家庭状況

核家族が過半数を占めた。対象となった子ど もの大半が兄弟の1番目か2番目であった。母 親の就業率は73.62%と学童を持つ家庭の全国 平均より高かった2)。祖父,祖母の就業率とも 50%を越え、祖父母が同居していても必ずしも 下校時に家にいるとは限らないようであった。 501人 (22.66%) の家庭で、子どもの下校時に 家族が家にいないと答えた。下校時に家族が家 にいない家庭のすべてではないが、その中の相 当数の家庭にとっては、学童保育など放課後に 利用できるなんらかの施設が必要であると考え られる。また、最初は学童保育を利用すること を考えたが現在は利用していないと答えた家庭 が344あることや、学童保育未設置の校区で「下 校時に家族が家にいない」という答え以上に「自 分の家庭にとって学童保育は必要だ」と答えた 人がいることより、下校時に家族が家にいない 家庭以外にも学童保育を必要としている家庭が 存在すると考えられる。

#### 2. 十分にニーズを満たされていない家庭

調査結果から、以下に示したような十分に ニーズを満たされていない家庭の存在が推察さ れた。

#### i. 学童保育を設置していない校区の家庭

学童保育を校区毎に設置しているので、未設置の校区の家庭では学童保育が必要であっても利用できない状態であった。すべての校区の希望者が学童保育を利用することが可能になるようにするためには、施設数を増やす、あるいは校区毎のみの利用でなく複数の校区で学童保育を利用できるようにするなどの措置が必要であると考える。

#### ii. 運営内容により利用できない家庭

閉所時間が早すぎる, 土曜日や長期休業日に 開設されていない, 定員を超えていたなどの理 由で学童保育を利用できる校区であっても利用 することができない家庭があることが示され た。保護者の勤務の実態に即した開設時間や開設日の検討が必要である。閉所時間を遅くすると、日没後に帰宅する場合が生じてくるが、一定の時間を過ぎれば、保護者が迎えに来るようにするなどの方法をとることで解決できる。定員については、学校の生徒数がぞれそれ異なるとめ、学校毎の希望者数に応じた定員数をとの大きをしたとや、校区を越えて利用できるなどの方法をとされるであることや、校区を越えて利用できるなどの利用であることを表が必要である。活動内容に不満を持ち、利用しない家庭もあった。学童保育は子どもたちが一気にいきいきとさまざまなまたちが一気にいきいきとさまざまなまない。

## iii. 現在学童保育を利用しているが,改善の希望を 持つ家庭

現在学童保育を利用している家庭でも、 閉所 時間や開設日など種々の改善の希望を持ってい ると考えられた。閉所時間については改善の希 望を持つ家庭の大半が午後6時を希望した。土 曜日については半数の家庭が開設を希望した。 そのうちの半数が午前8時の開所を希望した。 土曜日の閉所時間の希望は午後5時以降が約 80%を占めた。春休み、冬休みの開設は約90% と多くの家庭が希望した。以上のような希望は, 子どもが安全に過ごすために保護者の勤務の実 態に即した開設日、開設時間を希望している結 果と考えられる。活動内容については、希望す る内容として、「宿題」が最も多かったが、「ス ポーツ」が次に多い希望数であった。「室外遊 び」、「室内遊び」もそれぞれ相当数あった。多 彩な活動を行う場所であることを期待している 家庭が多いと考える。学童保育は、指導員に見 守られる中で、子どもが友達と交わりながら、 自主的に活動できる場所である。運営方法を検 討していけば、さまざまな活動が可能となって くると考える。

#### 3. 検討すべき課題

以上のように、今回の調査の結果からは十分 にニーズを満たされていない家庭が存在するこ とが示唆された。放課後健全育成事業の果たす 役割は保護者が就労などで下校時に家庭にいな い子どもたちが安全に自主的に活動する環境を 確保することである。この役割を十分に果たすためには以下のような課題を検討すべきと考える。①施設数,②定員数,③校区と施設の関連, ④開設日,⑤開設時間,⑥活動内容。

## Ⅴ. 終わりに

施設数を増やすとともに運営内容を十分に検 討して、希望する家庭の子ども達がすべて利用 できるような放課後健全育成事業の実施が必要 と考える。

本論文の一部は第14回中国四国小児保健学会で報告した。

#### 謝辞

調査にご協力いただいた、A市の教育委員会、各小学校各私立保育園および保護者の皆様に深謝致します。

## 文 献

- 1) 施設と運営, 新版学童保育のハンドブック. 全 国学童保育連絡協議会. 2004:83-100.
- 2) 日本子ども資料年鑑2005. 社会福祉法人 恩寵 財団母子愛育会 日本子ども家庭総合研究所. 2005:85.